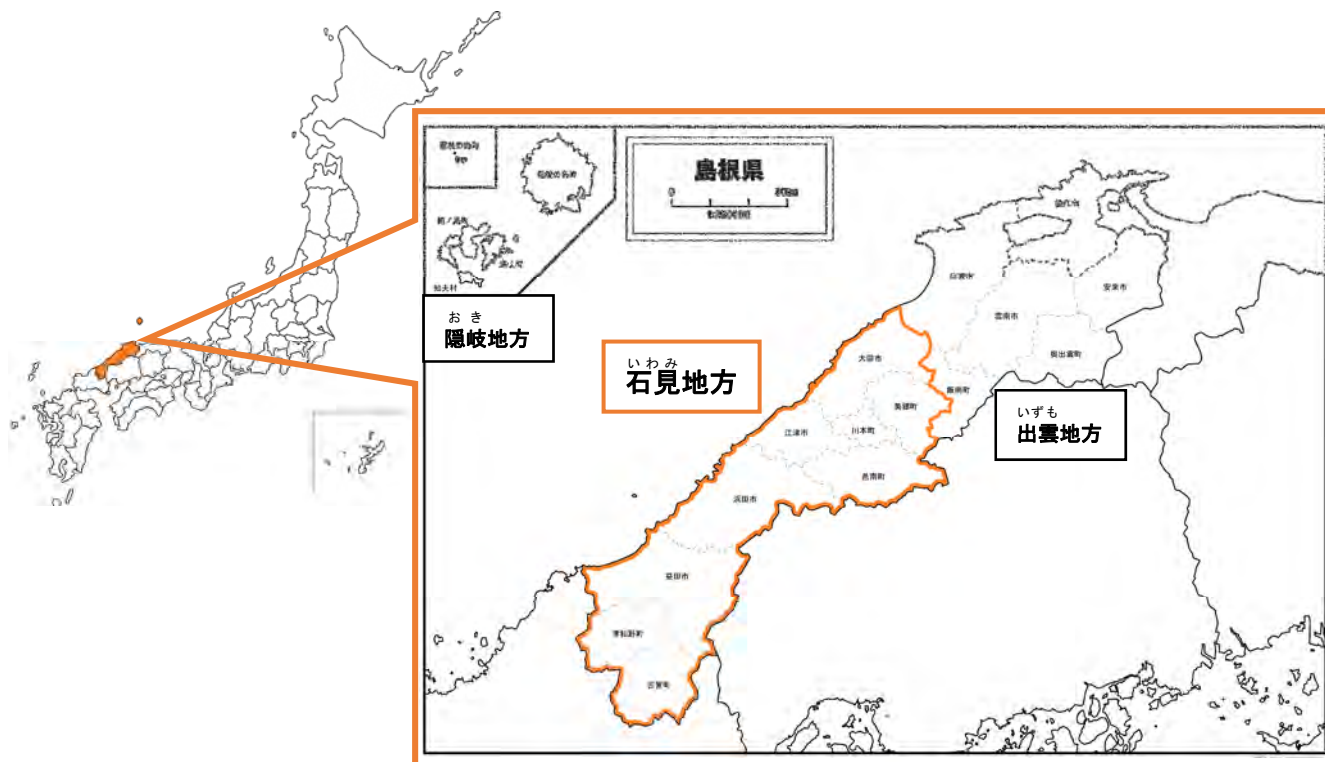
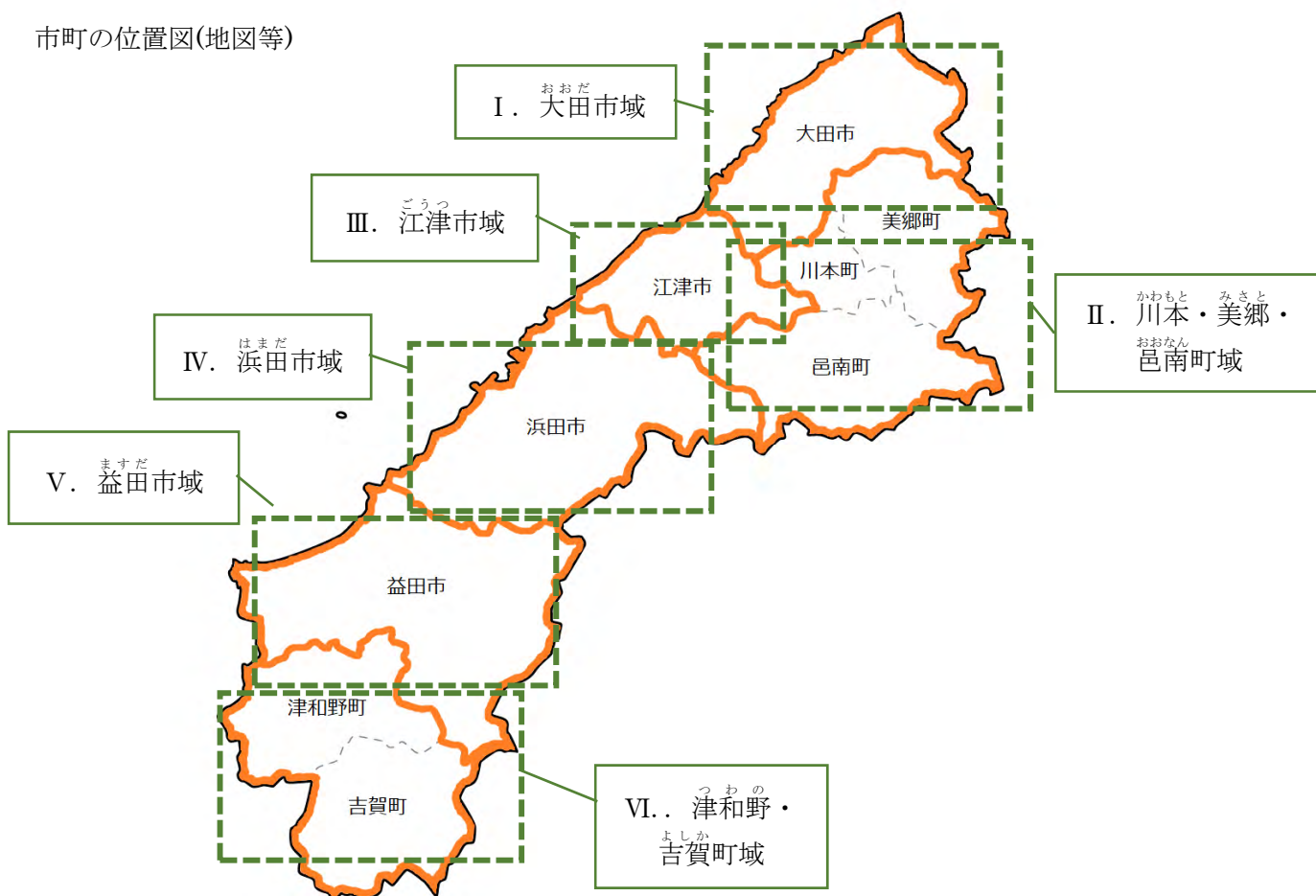


① 申請者	◎浜田市、益田市、大田市、江津市、川本町、美郷町、邑南町、津和野町、吉賀町	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
神々や鬼たちが躍動する神話の世界 ～石見地域で傳承される神樂～			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
<p>島根県西部、石見地域一円に根付く神樂は、地域の伝統芸能でありながらも、時代の変化を受容し発展を続けてきた。その厳かさと華やかさは、人の心を惹きつけて離さない。神へささげる神樂を大切にしながら、現在は地域のイベントなどでも年間を通じて盛んに舞われ、週末になればどこからか神樂囃子が聞こえてくる。老若男女、観る者を魅了する石見地域の神樂。それは古来より地域とともに歩み発展してきた、石見人が世界に誇る宝なのだ。</p>			
神社での奉納神樂		重要無形民俗文化財「大元神樂」	
職人の手により漉かれる石州半紙		神樂衣裳の着付け体験を楽しむ子ども達	

島根県、市町の位置図(地図等)



市町の位置図(地図等)



構成文化財の位置図(地図等)

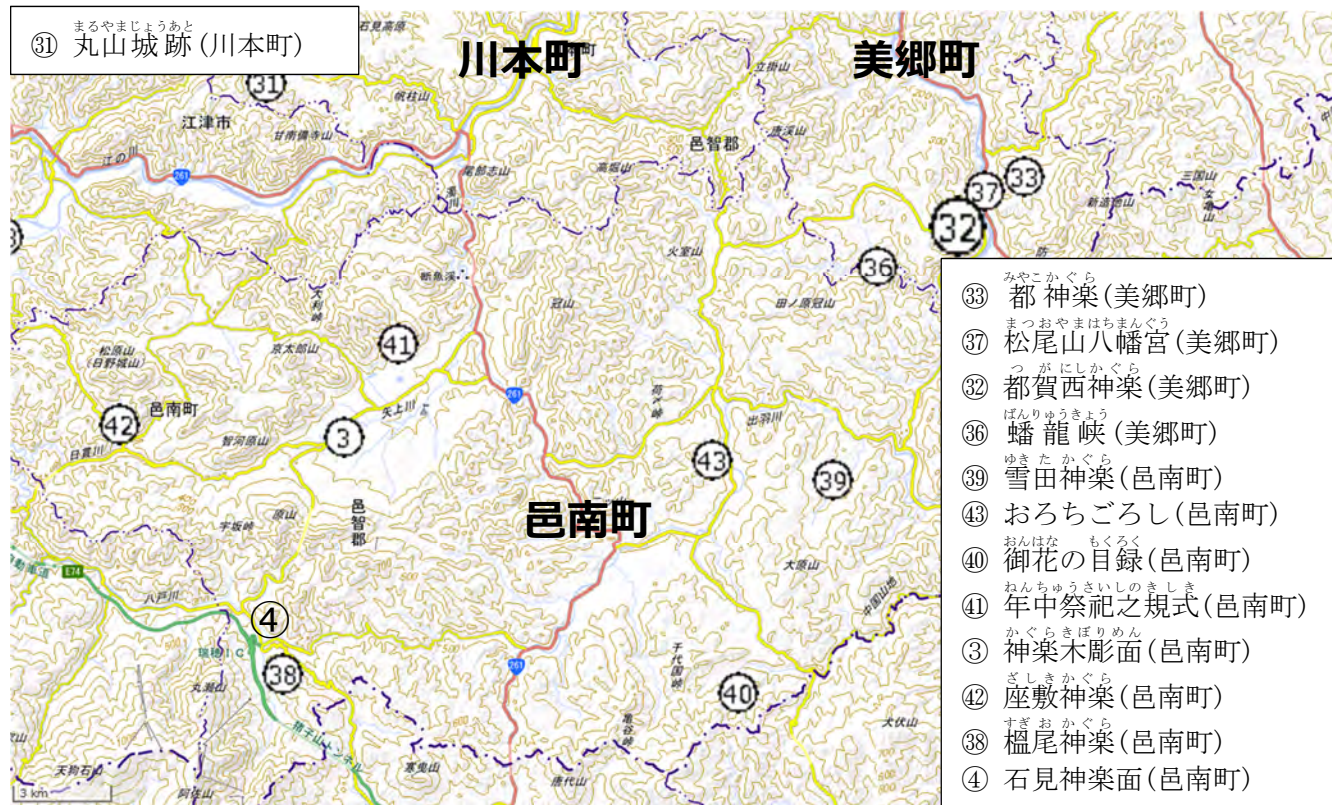
I. 大田市域



※ 出典：国土地理院(<https://maps.gsi.go.jp>)

※ 地理院地図を加工して作成(以下同じ)

II. 川本・美郷・邑南町域



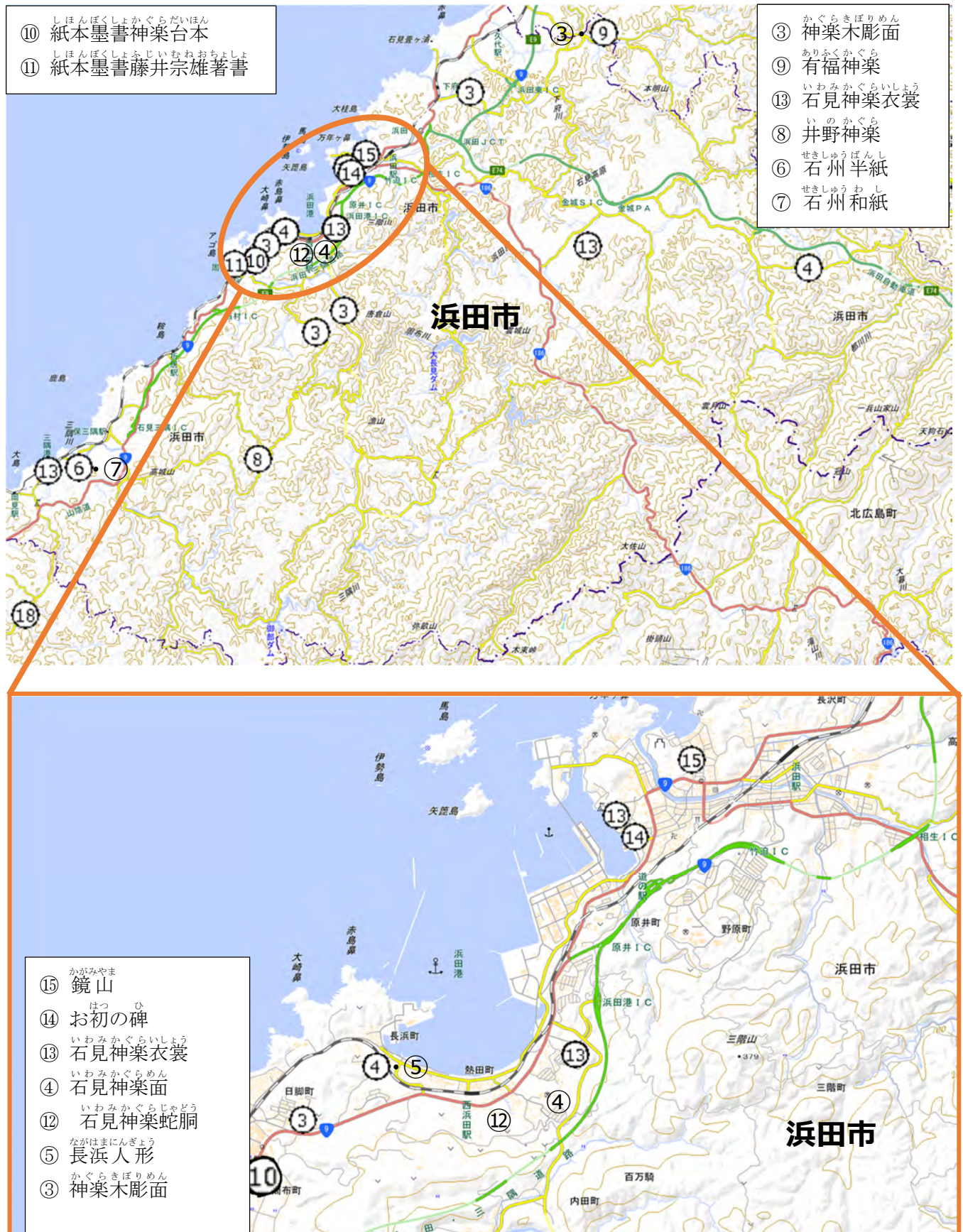
構成文化財の位置図(地図等)

Ⅲ. 江津市域



構成文化財の位置図(地図等)

IV. 浜田市域



構成文化財の位置図(地図等)

V. 益田市域



VI. 津和野・吉賀町域



- ① おおもとかぐら
大元神楽は江津市の一部・川本町・美郷町・邑南町に分布
- ② いわみかぐら
石見神楽は9市町全域に分布
- ③ ③ 角寿司(箱寿司・押し寿司)は9市町全域に分布

ストーリー

○神楽を伝え、舞とともに生きる石見人

島根県西部に位置する石見地域。人口が減少し、全体の人口がわずかに19万人でありながらも、この地域には、神楽団体（社中・保存会等）が130を超えて存在し、それぞれの地域で伝承されてきた舞を守り続けるとともに、時には新たな舞を創造しています。

なぜ、この地で暮らす者は、大人も子どもも神楽に魅せられ、若者は神楽を舞うためにこの地に残ることを選択するのか。ここ石見で伝わる神楽の魅力の一端をご紹介します。

○大元神楽と石見地域の神楽の変遷

古来より、石見地域一円に根づく大元信仰に基づき、数年に一度それぞれの村で周辺地域の神職が集まって執り行う「大元神楽」が行われており、これが現在の石見神楽のルーツとなっています。

大元神楽は、近世以前から石見地域一帯に伝承されており、恵みを与えてくださる神（大元神）への感謝を表す大元信仰から生まれたものといわれています。数年に一度の式年祭の日に行われ、斎場に大元神をお迎えし、神事、儀式舞、神楽舞が夜を徹して行われます。中でも神がかりによる神のお告げを聞く託宣の神事があり、これが大元神楽の特徴でもあります。

明治期には、神職による神楽や託宣の神事を禁止する政府の命令が出され、大半の地域では託宣の神事は姿を消すことになりましたが、山間部の一部の地域では今でも神職による神事と神がかりが伝承されており、1979年に「大元神楽」として国の重要無形民俗文化財に指定されました。

現在では、かつての神職による舞が比較的忠実に受け継がれた、ゆるやかで優雅な舞を六調子神楽、舞や奏楽の調子が速くなったものが八調子神楽と呼ばれています。

また、舞われている演目は30番を超え、素面に採り物で行われる「儀式舞」と、古代から中世にかけての神話・説話を基に神や鬼が躍動する「能舞（神楽能）」と呼ばれるものに大きく分けられます。

○神楽囃子の聞こえる里「石見」

秋になると、集落のお宮の周りには大きな幟が立ち、祭りの訪れを知らせます。祭りの日には大きくて美しい傘鉾（花笠）を飾る地区、参道沿いの家が大きな提灯を下げる地区など様々ですが、皆一年に一度の大切な日を心待ちにしています。

夜になると、小さい子どもからお年寄りまで、銘々に毛布を抱えたり、弁当や酒を抱えたりしながら、お宮や公民館などへ続々と集まってきます。その表情は、これから始まる神楽への期待に満ちています。いよいよ時間が来ると、透き通るような笛の音が夜空に鳴り響き、太鼓の音が大地を震わせます。

粛々と舞う儀式舞に続いて、装飾豊かで豪華絢爛な神楽衣裳に身を包んだ神や鬼が舞殿に立ち現れる神楽舞が繰り広げられていき、子どもも大人も食い入るように見つめ、大きな拍手を送ります。夜気が深々と冷え込む中、人々の熱気とともに神楽の夜は更けていくのです。神の御前に集い、一年の豊作と平穏に感謝し、次の一年も平和に暮らせるよう祈りながら、一緒に祭りの日、神楽の宵を楽しむこと、それが人々にとってなによりの喜びなのです。

現在では、神社祭礼での奉納や地域のイベントでの上演にとどまらず、ホールの舞台で舞う機会が増え、照明効果や音響効果を取り入れた公演や、現代アーティストとコラボするなど、新たな「魅せる」挑戦をしています。

その一方で、昔ながらの舞を楽しもうという伝統を守るための取組も行われています。石見地域の神



大元神楽の綱貫の神事（江津市）



傘鉾が飾られた地域のお祭り（邑南町）



奉納神楽を楽しむ人々（浜田市）

楽の持つ多様性、多面性、時代に寄り添う柔軟性も、人の心を惹きつける魅力です。

○地域を飛び出す石見神楽

江戸時代後期から明治期にかけて、広島県境や山口県境を中心に周辺地域にも影響を与えた石見神楽。全国にその名が知れ渡ったのは、1970年に大阪で行なわれた日本万国博覧会のメインステージにおける石見神楽の演目「大蛇」の上演がきっかけでした。「大蛇」は八岐大蛇神話を元にした演目で、それまで1頭から2頭の「大蛇」が出てくるのが一般的でしたが、大きなステージで魅せるため、はじめて8頭以上の「大蛇」に挑戦し、その迫力で観客を圧倒しました。これを機に多くの「大蛇」が出てくるようになり、県内外に知られるようになったほか、個々の神楽団体での活動だけではなく、神楽団体が連携して神楽公演を行う体制づくりができました。

現在では、そういった協力体制も定着し、国や他県から要望を受けて、個々の神楽団体や各市町の神楽連絡協議会単位での県外公演や海外公演も多く行われています。

○神楽とともに発展してきた地場産業

石見神楽面、金糸・銀糸をふんだんに用いた豪華な石見神楽衣裳、演目「大蛇」に用いる石見神楽蛇胴。これらは、いずれも和紙が使われており、石見の地「浜田」で生まれ、発展してきました。

石見神楽面は、粘土型に和紙を何層も貼り重ね、柿渋を塗ることで補強され、軽さと汗に強い耐久性を実現しています。また、舞の中で、一際存在感を放つ龍や虎などの動物や植物などの神楽衣裳の模様も和紙を土台に刺繍されます。更に、約17mもある「大蛇」の蛇胴の躍動感あるリアルな動きを可能にしているのも、石州和紙の特性による所が大きいといえます。

石見神楽を語るうえで欠かすことのできない「面・衣裳・蛇胴」に共通する、なくてはならない材料、それが石州半紙に代表される石見の和紙でした。この和紙なくして、石見神楽のものづくり産業は成立しえなかったのです。また、その技術は石見神楽にとどまらず中国地方の神楽に大きな衝撃と影響を与え、瞬く間に広まりました。

ひと言で「神楽」といってもその姿は地域によって様々です。出雲や備後など他の地域と接した土地では、双方で影響しあいながら奏楽や演目が成り立ちました。

また、山間部では、ゆるやかな奏楽と舞で人々の心を癒し、沿岸部では弾けるような奏楽に乗せた激しい舞で観る者の心を沸き立たせます。同じ信仰や流れを汲みながらも、それぞれの集落で、その土地の特徴ある舞が受け継がれてきました。

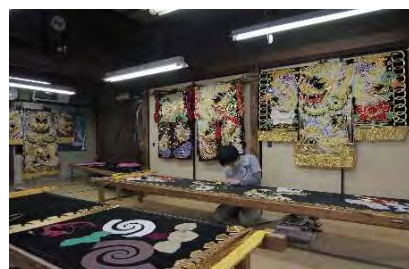
それぞれ個性はあれども、舞う場所が変われども、変わらないのは郷土を想う心、それがここ石見地域で伝承される「神楽」なのです。



1970年大阪万博での「大蛇」上演



石見神楽面工房



石見神楽衣裳の工房



石見神楽蛇胴の彩色風景



毎週土曜日開催の石見神楽定期公演

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	ふりがな 文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	おおもとかくら 大元神楽	国無形民俗	数年に一度の式年祭 <small>しきねんさい</small> の日に執り行われる。一連の神事の中で託宣による神がかりが行われるところが一番の特徴。	江津市、川本町、美郷町、邑南町 (邑智郡大元神楽伝承保存会)
②	いわみかくら 石見神楽	未指定 (無形民俗)	いわみ石見地域で神職により伝えられていた神楽が明治以降に民衆に受け継がれた氏子神楽。石見地域一帯に伝わりその団体数は130を超える。	浜田市、益田市、大田市、江津市、川本町、美郷町、邑南町、津和野町、吉賀町
③	かくらきぼりめん 神楽木彫面	市有形民俗 (邑南町は未指定)	明治以前の和紙面が普及する前に主流となっていた神楽面。	浜田市、益田市、邑南町
④	いわみかくらめん ながはまめん 石見神楽面(長浜面・市木面)	未指定 (工芸品)	明治期には、氏子 <small>うじこ</small> へ神楽が受け継がれ多くの団体が発生したため、量産可能な和紙で作られた面が普及した。邑南町の市木には、明治から昭和にかけて使用された面の型が現存している。	浜田市、大田市、江津市、邑南町
⑤	ながはまにんぎょう 長浜人形	未指定 (有形民俗)	江戸中期から始まったとされる伝統工芸品。土で作られた人形で、長浜人形制作の技法が石見神楽面(長浜面)の制作技法に応用されている。	浜田市、江津市
⑥	せきしゅうばんし 石州半紙	国無形 ユネスコ無形 文化遺産	地元で栽培された良質の楮 <small>こうぞ</small> を使用し、微細で強靱で光沢のある和紙。かつては、大阪の商人が石州半紙を帳簿に用い、火災のときは保存のため、井戸に投げ込んだと伝えられる。この水に強い特性が、石見神楽面 <small>いわみかくらめん</small> における軽さと汗に強い強靱さを両立させていると言え、明治期には、木彫面 <small>きぼりめん</small> に代わって和紙面が普及することになった要因と言える。	浜田市
⑦	せきしゅうわし 石州和紙	未指定 (工芸品)	石州半紙 <small>せきしゅうばんし</small> に代表される石州和紙 <small>せきしゅうわし</small> の技術・技法は、石州半紙 <small>せきしゅうばんし</small> を漉く浜田市三隅町を中心とした職人の手で一貫されて保持されている。石見神楽面 <small>いわみかくらめん</small> 、石見神楽衣裳 <small>いわみかくらいしやう</small> 、石見神楽蛇胴 <small>いわみかくらじゃどう</small> 、幣などの採	浜田市

			り物などにも使用され、石見神楽では、 欠かすことのできない重要な素材と言え る。	
⑧	いのかがら 井野神楽	県無形民俗	古風な演目や所作を残留させている 正調石見八調子神楽。井野八幡宮の 例祭を中心に舞われている。	浜田市(井野 神楽)
⑨	ありふくかがら 有福神楽	県無形民俗	正調石見八調子神楽。保持する 32 番 の演目すべてが指定を受けており、下 有福八幡宮の例祭を中心に舞われて いる。	浜田市(有福 神楽保持者会)
⑩	しほんぼくしょかがらだいほん 紙本墨書神楽台本	市有形 (古文書)	浜田西部の神職神楽に用いられたもの と考えられているこの台本は、「神宮 皇后三韓退治」「五神」「四神」「天神」 「八十神」の 5 演目が収められている。 石見神楽の発展、伝播を考える上で貴 重な資料となっている。	浜田市
⑪	しほんぼくしょふじいむねお 紙本墨書藤井宗雄 著書	市有形 (典籍)	藤井宗雄が著した。著書中の 「石見之國神社記」には、明治維新まで 神楽上演の場であった式年祭において 祀られる大元神が、所在地と共に描きあ げられている。	浜田市
⑫	いわみかがらじゃどう 石見神楽蛇胴	未指定 (工芸品)	提灯から着想を得て浜田市の植田菊市 氏により開発された。材料は竹と石州 和紙のみで長さは約 17mにも及ぶが驚 くほど軽量。この蛇胴の発明をきっかけ に「大蛇」が石見神楽における代表演 目となる。	浜田市、江津市
⑬	いわみかがらいしょう 石見神楽衣裳 (刺繍衣裳)	未指定 (工芸品)	金糸・銀糸がふんだんに用いられた豪 華絢爛な神楽衣裳。特に「生き物」とい われる立体的な刺繍は、衣裳の命とも 言われている。	浜田市、江津市
⑭	れつじよ はつ ひ 烈女お初の碑	未指定 (建造物)	江戸時代の浜田藩邸で起こった、世に 知られる「鏡山事件」の主人公お初こと 松田察。主人の敵討ちを果たした烈女 として、歌舞伎や浄瑠璃の演目にもなる ほか、地元神楽社中の創作演目の題材 にもなっている。	浜田市
⑮	かがみやま 鏡山	未指定 (史跡)	歌舞伎の演目「鏡山 旧 錦絵」や石見 神楽の創作演目「鏡山」の主人公お初 が仕えた奥の中老岡本道女は、辞世の 歌を残し自害したが、その墓は浜田市 内にある鏡山「来福寺」境内にある。	浜田市

⑩	みかづらかぐら 三葛神楽	県無形民俗	石西でも珍しい六調子神楽の一つ。旧来の舞の手を保持し続けており、旧神職神楽の伝統を受け継ぐ。	益田市 (三葛 かぐらほじしやかい 神楽保持者会)
⑪	くしろかぐらまい 久城神楽舞	市無形民俗	170 年以上の歴史を持ち、独特なテンポと舞を受け継いでいる。(「双剣」「十羅」の 2 演目が指定)	益田市 (石見 かぐらほぞんかいくしろ 神楽保存会久城 社中)
⑫	たねかぐらまいにだい 種神楽舞二題	市無形民俗	160 年以上の歴史を持ち、地元に根ざし、伝統を受け継いでいる。(「鍾馗」「恵比須比須」の 2 演目が指定)	益田市 (種神楽 たねかぐら ほぞんかい 保存会)
⑬	みたにかぐら 三谷神楽	市無形民俗	明治初年(1868 年)に発足し、現在まで伝統を受け継いでいる。地元の例祭を中心に舞われ、郷土芸能を後世に伝えている。	益田市 (三谷 かぐらしやちゆう 神楽社中)
⑭	まるもかぐら 丸茂神楽	市無形民俗	明治中期から受け継がれた六調子、八調子系神楽。昭和 43 年に「板井川神楽社中」から「丸茂神楽社中」に改名し、今日に至る。	益田市 (丸茂 かぐらしやちゆう 神楽社中)
⑮	ひきみかぐら 匹見神楽	市無形民俗	明治中期に六調子神楽から始まった。一度継承は途絶えたが昭和 6 年(1931 年)にかつての団員が発起。八調子神楽を導入し現在に至る。	益田市 (匹見 かぐらしやちゆう 神楽社中)
⑯	みちかわかぐら 道川神楽	市無形民俗	明治 40 年頃(1907 年頃)発足し、六調子神楽から始まった。現在では八調子となり、英語訳の神楽にも取り組んでいる。	益田市 (道川 かぐらしやちゆう 神楽社中)
⑰	たねかぐら 多根神楽	市無形民俗	明治時代に三瓶町多根地区で始まったとされ、舞の種目は七座七種の能舞十八種。演目は「塩清め」「榊舞」「千早舞」「ごさ舞」「四方幣」「手草舞」「四方剣」「芝佐」「国向けの舞」「吉利女」の他 8 番ある。六調子の優雅な舞であり、アメリカのディズニーランドでも親善公演を行う等、各地で公演している。	大田市 (多根 かぐらだん 神楽団)
⑱	たくの 宅野子ども神楽	市無形民俗	日本海に面する仁摩町宅野地区に江戸時代から伝わる地区内の小中学生が舞う神楽。演目は「清祓」「えびす舞」「鬼舞」「獅子舞」「八幡」「酒造り」「大蛇」がある。毎年、正月行事として地区内で舞われている。アメリカボストンの音楽祭東アジア子ども芸術祭で公演している。	大田市 (宅野子 かぐらだん ども神楽保存 会)

②5	<p>ゆのつちようじゆうようでんとうてき 温泉津町重要伝統的 建造物群保存地区</p>	国重伝建	<p>世界遺産石見銀山の外港として栄え、 永く湯治場として名を馳せた温泉のある 町。平成 16 年(2004 年)に温泉町として は日本で唯一の国選定を受けた。現在 では毎週土曜日に石見神楽の定期公 演が実施されている。</p>	大田市
②6	<p>かちじぼんし 勝地半紙</p>	市無形民俗	<p>楮が原料の強靱な紙質の和紙。大元 神楽において幣等の道具に使用されて いる。</p>	江津市
②7	<p>やとおおもとじんじや 八戸大元神社のムクの 木</p>	市天然記念物	<p>推定樹齢 400 年の神木で、大元神楽の 際には藁蛇を縛り付け託宣(大元神の お告げ)を受ける。</p>	江津市
②8	<p>おおもとかがくらでんしやうかん 大元神楽伝承館</p>	未指定 (有形民俗)	<p>大元神楽の神楽面、幣などの採り物、 演目「綱貫」の模型の展示や、豊富な写 真や映像により、大元神楽の歴史の深 さや精神を伝える。また、著名な神楽研 究者である牛尾三千夫、竹内幸夫資料 一式が保管されており、神楽研究の上 で重要な資料も閲覧できる。</p>	江津市
②9	<p>いちやまはちまんぐう 市山八幡宮</p>	未指定 (建造物)	<p>『石見国神社記』に「市山村飯尾山鎮座 八幡宮末社大元社」と記載される神社 で、舞殿では 6 年に 1 度、大元神楽 式年祭が執り行われる。社のすぐ裏に ある杉の神木には、大元神楽の託綱 (藁蛇)が巻かれる。</p>	江津市
③0	<p>こしき 甑</p>	未指定 (有形民俗)	<p>古来(明治時代頃)から現在に至るま で、勝地半紙の製作に使用されてきた 巨大な楮蒸し器。神楽の演目 「八岐大蛇」に出てくる「大蛇」の組み手 で、とぐろを 3 段に巻いた形が「こしき」と 呼ばれている。</p>	江津市
③1	<p>まるやまじやうあと 丸山城跡</p>	県史跡	<p>天正 13 年(1585 年)に完成したとされる 総石垣造りが特徴の城跡で、地元の神 楽団の創作神楽の題材にもなってい る。</p>	川本町
③2	<p>つがにしかがくら 都賀西神楽</p>	町無形民俗	<p>演目「山伏」は小尾山八幡宮の例大祭 で 3 年に 1 度上演され、美郷町の文化 財指定を受けている。</p>	美郷町(都賀 西神楽保存会)
③3	<p>みやこかがくら 都神楽</p>	町無形民俗	<p>演目「天の岩戸」は『古事記』『日本 書紀』に記されている天岩戸開の神話 を神楽化したもので、美郷町の文化財 指定を受けている。</p>	美郷町(都神 楽団)

③④	オロチカツラ	県天然記念物	樹齢 500 年のカツラの大樹で神楽の演目にもある八岐大蛇 <small>やまたのおろち</small> のように8本の支幹 <small>しかん</small> を株立ちさせていることからオロチカツラと呼ばれている。	美郷町
③⑤	鍔絵 <small>こてえ</small>	未指定 (工芸品)	鍔絵 <small>こてえ</small> といわれる漆喰 <small>しじょうき</small> のレリーフ。中には、神楽演目にもある「鍾馗」がデザインされたものもある。	美郷町
③⑥	蟠龍峡 <small>ばんりゅうきょう</small>	未指定 (名勝)	美郷町にある溪谷を觀賞できる景勝地。「髪掛けの松」の伝説があり、地元の都神楽団 <small>みやこかぐらだん</small> の創作演目にもなっている。	美郷町
③⑦	松尾山八幡宮 <small>まつおやまはちまんぐう</small>	未指定 (建造物)	秋の例大祭には、奉納神楽、竹灯籠のイベント「伝統芸能と光の祭典」が開催される。	美郷町
③⑧	榎尾神楽 <small>すぎおかくら</small>	町無形民俗	市木の神楽は明治 10 年頃(1877 年頃)に、三上峯尾氏(田所)という人物により伝えられて始まったとされる。所作がゆったりとして優雅さにあふれている点が特徴で、多種多様な奏楽とともに、伝統的な神楽を現在に伝えている。	邑南町 (榎尾神楽団) <small>すぎおかくらだん</small>
③⑨	雪田神楽 <small>ゆきたかくら</small>	町無形民俗	明治時代初期、賀茂神社(阿須那)の齋藤式部宮司により伝えられた「七座」の舞が、変遷を経て雪田神楽として受け継がれ、現在に至る。演目「岩戸」は邑南町の無形民俗文化財指定を受けている。	邑南町 (雪田神楽団) <small>ゆきたかくらだん</small>
④⑩	御花の目録 <small>おんはな もくろく</small>	未指定 (古文書)	神楽団への寄付を行った人の名前を記した目録。地域によっては金額をあげさに書いたり、おめでたい絵を描いたりするなど、ユーモアあふれるものが多く、筆上手な人がその場で書いていた。現存する 2 点は昭和中頃のものと思われる。	邑南町
④⑪	年中祭祀之規式 <small>ねんじゅうさいしのきしき</small>	未指定 (古文書)	大元大明神 <small>おおもとだいみょうじん</small> の祭りとして、「祭祀子辰申四年二一度九月十日一夜之神楽ヲ奏ス郡内祀官行之」という記述がみられ、近隣の神官たちにより式年の神楽が執り行われていたことが分かる文書。時期は天正 4 年(1576 年)、賀茂神社(邑南町中野)所蔵で、大元神楽 <small>おおもとかくら</small> の原型を垣間見ることができる資料。	邑南町

④②	ざしきかぐら 座敷神楽	未指定 (無形民俗)	ひぬい地区にある江戸時代の豪農屋敷で、大元神楽を観光資源として活用しようと、定期的に行っている神楽。室内の座敷で神楽を舞い、郷土料理などを振る舞う。	邑南町
④③	やなぎかぐら 柳神楽	県無形民俗	六調子神楽でかつての神職神楽の舞振りがよく伝えられている。明治初年に付近一帯の総氏神である津和野町池村の三渡八幡宮宮司 水津運興から津和野町柳村の氏子に伝授され始まり、天井から吊るされクモ(天蓋)の下、一間四方の範囲で舞う仕来りが守られ、「神楽」「塩祓い」「四剣」「十羅」「岩戸」などの曲目を保持している。	津和野町(柳神楽保持者会)
④④	やなぎかぐら 柳神楽の面と衣装	県有形民俗	永正3年(1506年)の年号が刻銘された鬼の面をはじめ、三渡八幡宮宮司 水津家伝来の19点の古面と千早など34着の古衣装が残る。	津和野町(柳神楽保持者会)
④⑤	みわたりはちまんぐう 三渡八幡宮	県有形 (建造物)	津和野町池村に位置し、丘陵上に社地を構える。正面より拝殿・本殿を配置し、拝殿手前の脇に神楽殿を配置する。本殿は、享保3年(1743年)建立。明治より前まで当社の祭礼にはいわゆる「舞」として神職神楽が舞われた。幕末から明治にかけての社寺整理により、「舞」は消滅の危機に陥ったが、宮司水津家により柳村の若者たち伝授され、「柳神楽」として現在に残る。	津和野町
④⑥	たいこだにいなりじんじや 太鼓谷稲成神社	未指定 (建造物)	津和野城の城山の一角にある神社で、安永2年(1773年)に津和野藩主 亀井矩貞によって創建された。日本五大稲荷の一社に数えられ、津和野町の主要な観光スポット。秋季には石見神楽の定期公演が行われる。	津和野町
④⑦	ぬくつきかぐら 抜月神楽	県無形民俗	六調子のゆったりとした舞に単純な所作を特徴とする。演目は石見神楽の古い形を伝える「山舞」と呼ばれる他にない舞いや、「胴之口開」「塩祓」などがある。	吉賀町(抜月神楽団)
④⑧	くろぶちかぐら 黒淵神楽	町無形民俗	六調子の静かな舞。抜月神楽と同様に津和野町左鐙の潮山八幡宮の宮司によって伝えられた。	吉賀町(黒淵神楽社中)

④⑨	しらたにかぐら 白谷神楽	町無形民俗	従来は神職が舞っていたものを地域の人が舞うようになったのが始まり。最初は六調子であったが、後に八調子に変わった。囃子は八調子であるが、舞の中には六調子の形が今でも残っている。	吉賀町（白谷神楽社中）
⑤⑩	あたごじんじや しやそう 愛宕神社の社叢	町天然記念物	黒瀧神楽が奉納されている神社で、その社叢には、神殿に上る階段の途中に根元周り約 7メートルで、樹齢が千年を超えると言われていた大杉がそびえ、吉賀町の天然記念物にも指定されている。また、島根県の名樹 100 選にも選ばれている「ケンポ梨」は、秋に落ちる実は栃もちとして食用にもされる。	吉賀町
⑤⑪	けんぎょくじんじや 剣玉神社	未指定 (建造物)	ぬくつきかぐら 抜月神楽が奉納されている神社で、秋の例大祭では毎年神楽が奉納される。	吉賀町
⑤⑫	かくずし はこずし おし 角寿司(箱寿司・押し寿司)	未指定 (無形民俗)	地域の祝い事には欠かすことのできない石見の味。神社で行われる奉納神楽において振る舞われることもある。	浜田市、益田市、大田市、江津市、川本町、美郷町、邑南町、津和野町、吉賀町

構成文化財の写真一覧

1 おおもとかぐら
大元神楽



2 いわみかぐら
石見神楽



3 かぐらきぼりめん
神楽木彫面



4 いわみかぐらめん ながはまめん いちぎめん
石見神楽面 (長浜面・市木面)



5 ながはまにんぎょう
長浜人形



6 せきしゅうばんし
石州半紙



7 せきしゅうわし
石州和紙



10 しほんぼくしよかぐらだいほん
紙本墨書神楽台本



8 いのかぐら
井野神楽



11 しほんぼくしよふじいむねおちしよ
紙本墨書藤井宗雄著書



9 ありふくかぐら
有福神楽



12 いのみかぐらじゅうどう
石見神楽蛇胴



13 いわみかぐらいしやう ししゅういしやう
石見神楽衣裳 (刺繍衣裳)



16 みかづらかぐら
三葛神楽



14 ほつひ
お初の碑



17 くしろかぐらまい
久城神楽舞



15 かがみやま
鏡山



18 たねかぐらまいにだい
種神楽舞二題



19 みたにかぐら
三谷神楽



22 みちかわかぐら
道川神楽



20 まるもかぐら
丸茂神楽



23 たねかぐら
多根神楽



21 ひきみかぐら
匹見神楽



24 たくの子どもかぐら
宅野子ども神楽



ゆのつちようじゆうでんとうてまけんぞうぶつぐんほんぞんちく
25 温泉津町重要伝統的建造物群保存地区



おおもととかぐらでんしょうかん
28 大元神楽伝承館



かちじぼんし
26 勝地半紙



いちやまはちまんぐう
29 市山八幡宮



やとおおもとじんじや
27 八戸大元神社のムクの木



こしき
30 甕



31 まるやまじょうあと
丸山城跡



34 オロチカツラ



32 つがにしかがら
都賀西神楽



35 こてえ
鏝絵



33 みやこかぐら
都神楽



36 ぼんりゅうきょう
蟠龍峡



37 ^{まつおやまはちまんぐう} 松尾山八幡宮



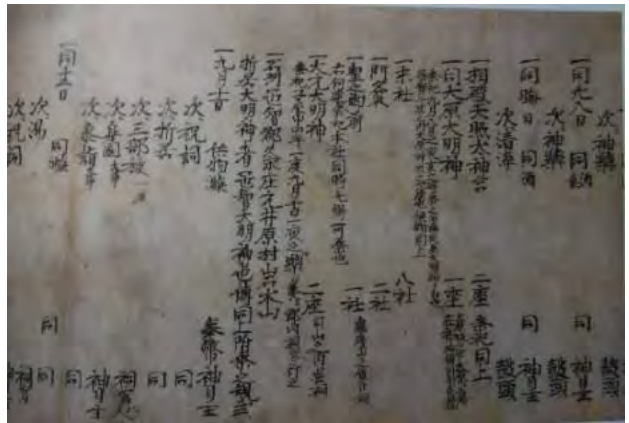
40 ^{おんはな もくろく} 御花の目録



38 ^{すぎおかぐら} 榎尾神楽



41 ^{ねんじゅうさいしのきしき} 年中祭祀之規式



39 ^{ゆきたかぐら} 雪田神楽



42 ^{ざしきかぐら} 座敷神楽



43 やなぎかぐら
柳神楽



46 たいこだにいなりじんじや
太鼓谷稲成神社



44 やなぎかぐら
柳神楽の面と衣装



47 ぬくつきかぐら
抜月神楽



45 みわたりはちまんぐう
三渡八幡宮



48 くろぶちかぐら
黒渕神楽



49 しらたにかぐら
白谷神楽



52 かくずし ほこずし
角寿司 (箱寿司・押し寿司)



50 あたごじんじや しやそう
愛宕神社の社叢



51 けんぎよくじんじや
剣玉神社



日本遺産を通じた地域活性化計画

(1) 将来像 (ビジョン)

地域の人々の手により脈々と受け継がれてきた石見地域(9市町)の神楽は、現在130を超える保持団体が存在し、子どもから大人まで幅広い世代に愛される伝統芸能である。また、現在では、地域の観光資源として活用されるほか、「石見神楽を続けたい」という理由で故郷に残り、地元で就職する若者も少なからずいるなど、若年層の定住という意味でもとても心強い存在となっている。さらには、地域に残らない者であっても、東京などの都会地において、石見神楽の認知度向上と石見地域への誘客の促進を願い、社中(団体)を設立し活動する者もいる。このように、他の地域の神楽にはない独自の文化がこの石見の地には発展してきた。

この石見地域にまたがるストーリー「神々や鬼たちが躍動する神話の世界～石見地域で伝承される神楽～」では、他の地域では見ることができない神楽と密接に関わる地域の魅力を感じることができ、それに向けた環境整備や情報発信を積極的に行うことで、神楽の里としてのブランディングを行い、独自の神楽文化を活用した地域の活性化を目的とする。

今回申請を行った石見9市町では、下記(4)実施体制でも記載する「石見観光振興協議会」を通じて、石見神楽振興に関する取り組みを行ってきたが、日本遺産認定を通じ、地域の重要な観光資源である神楽を共通のキーワードとしてとらえ、地域間の交流や連携について、更なる活発化を図るとともに、地域間のネットワークを活かして、単一の市町では困難な観光振興や交流人口拡大の推進を図る。

また、石見地域の神楽の魅力を持続して情報発信していくことで、守り伝えられてきた神楽の伝統を受け継ぐ後継者の育成に加え、地域に対する愛着を強化し、郷土愛の醸成につなげ、地域への自信と誇りを蘇らせ地域活性化の契機とする。

(2) 地域活性化のための取組の概要

I 取り組みの概要

石見の各地域で最も身近な伝統芸能として、守り伝えられてきた石見神楽の発展を促すとともに各地域の繋がりを通じた地域活性化を図るため、以下の基本方針に基づき各関係機関と連携しながら取り組みを進めていく。

- ①石見神楽の認知度向上・ブランディング化
- ②次世代への継承のための取り組み
- ③石見神楽を観光動機とした誘客促進
- ④地域内の賑わい創出と地域への愛着の強化

II 具体的な取り組み

①石見神楽の認知度向上・ブランディング化(神楽公演・ワークショップ・神楽をテーマとした文化芸術活動の実施)

神楽の公演や企画展、ワークショップ等の実施を通じて神楽を観たことのない層への情報発信を行い、新たなファンの取り込みを狙う。またアニメや漫画といった若年層や外国人が好む媒体を活用して、神楽の認知度の底上げを図る。

②次世代への継承のための取り組み(研究の活性化・ガイド等プロフェッショナルの育成)

研究者を集めたサミットの開催により、様々な地域から神楽研究者を呼び、交流を促すことで研究のさらなる活性化を図る。また、現地ガイドの育成を通じて外部への発信力の強化を図る。

③神楽を観光動機とした誘客促進(周遊モデルコースの設定・モデルコースを発信)

神楽を軸とした地域内の周遊モデルコースを策定し、エージェントや海外のインフルエンサー向けのファームツアーの実施により、旅行商品の造成や海外への発信につなげ、誘客を図る。

④地域内の賑わい創出と地域への愛着の強化(後継者の発表の場の確保・神楽関連産業の振興・郷土愛の醸成)

事業者向けの商談会へ神楽関連産業を出展させ、観光とは別の切り口で地域活性化を図る。

地域内の未就学児や小学生を対象とした出前講座を実施し、神楽への親しみの強化と後継者の育成につなげる。

(3) 自立的・継続的な取組

石見地域では、県・市町の関係団体等が連携した「石見観光振興協議会」が平成12年に設立され、一帯の観光振興のための事業に取り組む枠組みが形成されている。また、石見地域の110を超える神楽団体と市町、県などからなる「石見神楽広域連絡協議会」が平成25年に設立され、石見神楽の振興について意見交換や意識共有を図るなど、課題やその解決策に向けた取組が強化されている。

石見観光振興協議会会員による負担金をはじめ、神楽サポーター制度の創出によるサポーター会費や、日本遺産事業へ手数料が入る自販機設置などによる財源確保や民間活力の活用を図り、継続した取組を進めていく。

(4) 実施体制

【組織】 石見観光振興協議会(平成12年設立)

【構成団体】

(自治体) 浜田市、益田市、大田市、江津市、川本町、美郷町、邑南町、津和野町、吉賀町

(観光協会) 一般社団法人浜田市観光協会、一般社団法人益田市観光協会、一般社団法人大田市観光協会、江津市観光協会、川本町観光協会、美郷町観光協会、一般社団法人邑南町観光協会、美都町特産観光協会、匹見町観光協会、一般社団法人津和野町観光協会、吉賀町観光協会

(商工会議所・商工会) 浜田商工会議所、益田商工会議所、大田商工会議所、江津商工会議所、銀の道商工会、川本町商工会、美郷町商工会、邑南町商工会、桜江町商工会、石央商工会、美濃商工会、津和野町商工会、吉賀町商工会

(民間団体) 石見ツーリズムネット(圏域の観光関連施設等のネットワーク連携団体)

※日本遺産認定に向け、協議会の中に日本遺産の取り組みを検討・推進する枠組みの設置を検討する。

(5) 地域活性化計画における目標と期待される効果		定量的評価 :		別紙①のとおり	
期待される効果 :	神楽で繋がった石見9市町の広域的な取り組みにより、地域間の交流による活性化が期待できるとともに、スケールメリットを活かした観光誘客の効果により各市町が一体となった地域振興につなげることができる。 また、神楽と共に歩んできた地場産業にスポットを当てる取り組みを行うことで、産業の振興という観光とまったく別の切り口から地域経済に好影響を与えることができる。				
(6) 日本遺産魅力発信推進事業		別紙②のとおり			
補助金額 :	平成31年度 :	23,900千円	平成32年度 :	17,630千円	平成33年度 : 19,500千円
(7) その他事業		別紙③のとおり			

(5) 地域活性化計画における目標と期待される効果

設定目標Ⅰ：	日本遺産を活用した集客・活性化		
計画評価指標：	観光客入込み数 (具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	石見神楽定期公演での観光入込客数		
目標値：	平成 29 年度	17 千人 ⇒	平成 36 年度 22 千人
設定根拠：	石見地域各地で行われている石見神楽定期公演の観光入込客数を毎年1,000人ずつ向上させ、22千人を目指す。		
設定目標Ⅱ：	日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化		
計画評価指標：	地域の文化に誇りを感じる住民の割合 (具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	アンケート調査結果 (地域への愛着を感じる住民の割合)		
目標値：	平成 31 年度	未把握 % ⇒	平成 36 年度 50 %
設定根拠：	住民の半数が石見神楽を誇りに感じている		
設定目標Ⅲ：	日本遺産の関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立		
計画評価指標：	日本遺産関連で開発された商品・サービス数 (具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	石見神楽出張上演制度の利用件数		
目標値：	平成 29 年度	95 件 ⇒	平成 36 年度 150 件
設定根拠：	15名以上の団体で石見地域の宿泊施設に泊まる場合に使用できる出張上演の助成制度を活用した企画旅行商品を年間10件程度新たに創出する。		
設定目標Ⅳ：	その他		
計画評価指標：	その他 (具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	(具体的な指標を記載してください。)		
目標値：	平成	年度 ⇒	平成 年度
設定根拠：			

(6) 日本遺産魅力発信推進事業

事業①:	映像コンテンツ制作事業				
事業区分:	情報発信	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 31 年度		
補助金額:	平成31年度: 3,000千円	平成32年度:	0千円	平成33年度:	0千円
(積算)	コンテンツ制作 (100万円×3エリア)				
事業概要:	○石見地域の神楽の認知度向上のため、地域の特色を盛り込んだ映像コンテンツを製作 神楽やそれに関わる地場産業と周辺の温泉や観光施設などを組み合わせた動画を作成。石 東・石央・石西の地域ごとの映像の作成により、各地域の魅力をクローズアップする。				
評価指標区分:	コンテンツダウンロード数 (掲載HPや動画共有サイトでの再 生回数等)		(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標:	HPやYOUTUBE等での年間再生回数				
目標値:	平成 31 年度	0 回	⇒	平成 36 年度	50万 回
事業②:	周遊ツアー造成事業				
事業区分:	普及啓発	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 33 年度		
補助金額:	平成31年度: 6,000千円	平成32年度:	3,000千円	平成33年度:	7,000千円
(積算)	メディアツアー開催	ファミツアー開催一式	ファミツアー開催一式		
事業概要:	○周遊コースの造成、国内・国外向けのファミツアーの実施 滞在時間の延長を目指し、日本遺産と周辺観光資源等を組み合わせた周遊コースを造成。 平成31年度はメディアツアーを開催し、登録初年度の話題作りを行う。平成32年度は国内向 け、平成33年度は国外向けのファミツアー実施を予定。				
評価指標区分:	日本遺産に関する商品開発数		(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標:	日本遺産関連ツアーの催行件数。				
目標値:	平成 31 年度	10 件	⇒	平成 36 年度	50 件
事業③:	アプリ開発事業				
事業区分:	情報発信	事業期間:	平成 32 年度 ~ 平成 32 年度		
補助金額:	平成31年度: 0千円	平成32年度:	8,000千円	平成33年度:	0千円
(積算)		アプリ開発一式			
事業概要:	○多言語対応アプリの開発 ・日本遺産に関する情報発信機能 ・地域内へのナビゲーション機能 ・外国人観光客への音声ガイド機能				
評価指標区分:	コンテンツダウンロード数 (掲載HPや動画共有サイトでの再 生回数等)		(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標:	アプリダウンロード数				
目標値:	平成 31 年度	0 件	⇒	平成 36 年度	2,000 件

事業④：日本遺産を活用した地域学習の開催			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 32 年度 ～ 平成 33 年度
補助金額：	平成31年度： 0千円	平成32年度： 630千円	平成33年度： 1,500千円
(積算)		出前講座開催経費 630千円 諸経費70,000円×9地域=630千円	副読本製作費 1,500千円 副読本@100×15,000冊=1,500千円
事業概要：	<p>○石見地域内の児童を対象とした出前講座及び自由研究の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H32年度 <p>地域内の小学校5・6年生を対象とした出前講座を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H33年度 <p>授業の成果をまとめた副読本を作成し、地域内の小学校へ配布。副読本を参考に神楽の自由研究を募り、さらなる学習の広がりを目指す。</p>		
評価指標区分：	その他	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	小学校の授業において神楽を取り入れる件数		
目標値：	平成 32 年度	9 件	⇒ 平成 36 年度 20 件
事業⑤：プロモーション事業			
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 33 年度
補助金額：	平成31年度： 500千円	平成32年度： 3,000千円	平成33年度： 5,000千円
(積算)	プロモーション用ポスター作成 500千円 @400×500部=200千円、デザイン300千円	関西圏主要駅へのポスター掲出 3,000千円 20千円×30駅×5期=3,000千円	映像プロモーション費用 5,000千円 諸経費 200千円 1,600千円×3期=4,800千円
事業概要：	<p>○各種観光HPへのアクセスの多い関西圏へのプロモーションを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H31年度 <p>プロモーション用ポスター作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H32年度 <p>JR西日本管内の関西圏主要駅（30駅）においてポスター掲示を行い、日本遺産のPR及び誘客を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H33年度 <p>平成31年度に作成した映像コンテンツをJR西日本管内主要駅のビジョン及び車両内のビジョンで放映する。</p>		
評価指標区分：	宿泊者数	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	石見地域の宿泊者数		
目標値：	平成 29 年度	71万 人	⇒ 平成 36 年度 95万 人
事業⑥：パンフレットの製作			
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 31 年度
補助金額：	平成31年度： 4,400千円	平成32年度： 0千円	平成33年度： 0千円
(積算)	パンフレット印刷費 4,400千円 @400×10,000円×1.1=4,400千円		
事業概要：	<p>○神楽と関係する構成文化財を紹介するパンフレットの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語版のみ、周遊を促せるようマップ付きで作成 		
評価指標区分：	補助事業終了後のパンフレット等コンテンツ増刷数（自主事業分）	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	平成31年度から平成36年度の間パンフレット増刷総数		
目標値：	平成 31 年度	10,000 冊	⇒ 平成 36 年度 25,000 冊

事業⑦： 神楽サミット事業			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 33 年度 ～ 平成 33 年度
補助金額：	平成31年度： 0千円	平成32年度： 0千円	平成33年度： 3,000千円
(積算)			神楽サミット開催経費一式 3,000千円
事業概要：	○神楽の研究者を集めたサミットを開催 ・研究者間の交流の促進 ・日本遺産の深い魅力を市民へ発信		
評価指標区分：	日本遺産の認知度	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	申請市町の施設における認知度アンケート調査		
目標値：	平成 31 年度	30 %	⇒ 平成 36 年度 90 %
事業⑧： 広告の実施			
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 33 年度
補助金額：	平成31年度： 5,000千円	平成32年度： 3,000千円	平成33年度： 3,000千円
(積算)	広告等一式	広告等一式	広告等一式
事業概要：	登録初年度となる平成31年度にはメディア広告やウェブ広告を行い、認知度を向上させる。その後、平成32年度、平成33年度も引き続き日本遺産登録のPRを行いつつ、造成した旅行商品のPRも行う。		
評価指標区分：	コンテンツダウンロード数(掲載HPや動画共有サイトでの再生回数等)	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	動画広告再生回数及びHP閲覧ユーザー数		
目標値：	平成 31 年度	5万 件	⇒ 平成 36 年度 50万 件
事業⑨： 石見神楽常設展示場等の設置			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 31 年度
補助金額：	平成31年度： 5,000千円	平成32年度： 0千円	平成33年度： 0千円
(積算)	施設借用料ほか		
事業概要：	平日や昼間でも石見神楽に触れる機会を創出するとともに、いつでも石見神楽の歴史に触れることのできる展示場等を設置し、日本遺産の情報発信拠点を設置する。		
評価指標区分：	日本遺産に関する商品開発数	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	展示の来場者数		
目標値：	平成 31 年度	500 人	⇒ 平成 36 年度 3,000 人

(7) その他事業

事業①	石見の夜神楽定期公演事業		
機関・団体	市町村 : 浜田市・大田市・江津市・益田市・津和野	事業期間	平成 22 年度 ~ 平成 年度
事業概要	石見神楽の鑑賞機会の増加のため、拠点施設での定期公演を実施。		
事業②	石見神楽出張上演助成事業		
機関・団体	市町村 : 石見9市町	事業期間	平成 23 年度 ~ 平成 年度
事業概要	石見地域に宿泊される15名以上の団体向けに、神楽を安価に観覧いただけるよう上演費の助成を行う。		
事業③	石見神楽ガイド養成講座		
機関・団体	都道府県 : 島根県	事業期間	平成 25 年度 ~ 平成 年度
事業概要	石見神楽について観光客へ説明ができるガイドを育成。		
事業④	子ども神楽体験教室		
機関・団体	都道府県 : 島根県	事業期間	平成 25 年度 ~ 平成 年度
事業概要	後継者育成やファン獲得を目的に児童向けの石見神楽ワークショップを実施。		
事業⑤	石見神楽舞台設備アドバイザー派遣		
機関・団体	都道府県 : 島根県	事業期間	平成 25 年度 ~ 平成 年度
事業概要	石見神楽団体へ向け、舞台設備や機材の効果的な使用方法を指導するアドバイザーを派遣。		
事業⑥	奉納神楽無料送迎事業		
機関・団体	市町村 : 益田市	事業期間	平成 26 年度 ~ 平成 年度
事業概要	奉納神楽が行われる特定の対象日に益田市内の宿泊施設に泊まられている宿泊客を対象に奉納神楽会場までのタクシー送迎料金を無料とする。		
事業⑦	石見神楽東京公演		
機関・団体	民間団体 : 石見神楽東京公演首都圏実行委員会	事業期間	平成 28 年度 ~ 平成 年度
事業概要	民間団体主導による石見神楽の公演事業。		
事業⑧	石見神楽ラッピングバス運行事業		
機関・団体	都道府県 : 島根県	事業期間	平成 27 年度 ~ 平成 年度
事業概要	広島市の路線バスへのラッピングを行い、石見神楽の認知度の向上を図る。		
事業⑨	石見神楽ブランディングプロジェクト		
機関・団体	都道府県 : 島根県	事業期間	平成 29 年度 ~ 平成 31 年度
事業概要	石見神楽の認知度向上を図るため、専用サイトの構築やサイト内で発信する記事・動画の作成、ワークショップの開催や神楽を盛り込んだモニターツアー等を実施。		
事業⑩	石見神楽ワークショップ		
機関・団体	市町村 : 邑南町	事業期間	平成 31 年度 ~ 平成 年度
事業概要	神楽面やミニおろちを作ってもらい、親子連れ向けのワークショップを実施し、神楽の魅力に触れてもらう。		
事業⑪	石見神楽検定事業		
機関・団体	市町村 : 浜田商工会議所 一般社団法人浜田市観光協会	事業期間	平成 23 年度 ~ 平成 年度
事業概要	石見神楽について理解を深めていただくために、ご当地検定「浜田の石見神楽検定試験」を実施する。		